

ひろば  
大代

平成三12,5  
大代公民館

計画とアイデアの文化祭

十一月十七日

椿 高崎 備

十一月十日は日延への町民体育大会十七日は楽しい文化祭、それが終わったら報恩講さんとスケジュール一杯の十一月でした。

今年の文化祭のテーマは「ふれ合いの一日を楽しもう」です。幸い秋日和に恵まれ文化祭っていいものですね。学校部会の力作は努力の積み重ねに感心しました。中には牛乳パックのアイデア作品もあり、人の足を留めさせていましたし、婦人会はそのエネルギーを活動が会場の随所に現れており改めて敬意を表したところです。炊事場から作品の展示、野菜コーナーと大代の源動力を改めて見る事が出来た事です。

寿会は流石人生の頂天に在るだけであのゆったりしたコーナーは心の落ち着きを覚えさせて頂く事が出来ました。

生産部会に至っては部の呼吸がピッタリ合ったところが高山そばに現れ今後も続いている活動を希みたいものです。

日向会長を中心とした芸能部は早くからの世話で大変でした。素晴らしいステージが町民を引き込み楽しさ一杯美術部では多くの協力があり、立派な作品が展示され、人と作品が奪ったり奪われたりの光景を見る事が出来、ゆっくりと観賞されておられました。

グループ会のアイデアと実行力は人が織りなす中にうまく入り込み、あたりはいい顔や、笑い声そして語り合いがあり成功でした。

去年の文化祭が終わった時に今年の文化祭が始まっております。そうしてみれば一年がかりの大事業でした。なんとしても細かい事前の計画が大事な事は今更ですが実行は仲々難しいものです。工夫とアイデアは味付けみたいなもので、これにかかっているとんでも見たところでは、この日赤ちゃんから老人まで一緒に笑って楽しく過ごせた事は本当に幸せでした。

皆さんお疲れ様で苦勞様でした。い、日和の上、大根も売れてよかった

です。

大江高山登山

江津市江津町 阿部百合子



11月3日文化の日、秋晴れのすばらしき日曜日、大江高山登山、雲海を眺めながらの登りは思いの外、の険しさで自信をなくしつつ、もやっとの思いで山頂に辿り着く。

雲一つない山頂からの下界を見下ろす世界は、美しく雄大で最高の気分、大きな自然につ、まれると、なんとおだやかな気持ちになれることでしょう。途中もう引き返そうか、もう二度と登らないと思いつつも、頂上でのこの爽快な気分をもう一度味わいたいとひそかに思う。

山頂では別ルートからの2組のグループと出合う。

一期一会、二度と出合うことのない人達とのふれ合い、何時までも大切にしたい。

とても楽しい休日でした。「文化の日バンザイ」と思わず山頂で叫びたいほどでした。

色々と御世話下さいました方々、あ

りがとうございました。

優勝旗を手にして

八反田 水色組 中垣昌文

十一月に入って肌寒い晩秋の一日、  
昨年は雨で流れ二年ぶりに行われた大  
代町民体育大会、寒さをぶっ飛ばす様  
な熱戦の末、水色組が優勝しました。  
今年新調された優勝旗を閉会式の時、  
手にして遠い昔を思い出しました。

優勝旗を寄贈して下さった米原光義

さんが、八反田の生家に在任されていた  
頃の事です。太平洋戦争の始まった  
頃の戦時中、私が小学校一年生で米原  
さんが高等科二年生だったと思います。  
今、八反田自治会館を建設中の宅地  
に以前あった空き屋で、夏休みの学習  
を子供達が机がわりに木の箱を持って  
集まり、上級生に教わりながら勉強し  
た事、その時騒いで米原さんに叱られ  
てこわかった事は今でも忘れられませ  
ん。今の子供も同じだと思いますが、小  
学生時代の最上級生の偉大さ、こわさ  
を感じることは今も昔も変わらないと  
思います。  
先日東京石見高山会の総会に出席し

た時米原さんと笑いながら昔話をして  
帰ったばかりでした。

そうした因縁のある方の寄贈して下  
さった優勝旗を、初めて私の手で受け  
取った事は本当に感慨深いものがあり  
ました。奮闘して下さった水色組の皆  
さんに感謝しながら、五十年前を思い  
出して公民館報に寄稿させて頂きまし  
た。

アトランチックジャイアント

(かぼちゃ) コンテスト



「なんとまあ、大きい。」

出品された巨大かぼちゃ、25ヶ。大き  
いものは四人がかりで運ぶズッシリと  
重い迫力あるものに皆が目を見張った  
「今年初めての栽培で失敗した。腐  
ってしまった。」「飼料用には向かな  
いのでは」「豚も横を向いた」など

結局試食してみる事に決まったが、  
取り沙汰されたさにあらず、なかなか  
いけそうだ。切り身を牛に与えた結果  
はまずまずの成果の様だった。

持ち運びに手を焼き、「来年はもう  
止めた。重いのにこりこり」と言った  
人もあったが果たして来年はどうなっ

ていくのか。

◆審査結果は次の通りでした。

◎重量の部

- 1位 坂本 勲(下飯谷) 六七九 Kg
- 2位 葛原栄市(上市) 六三八 Kg
- 3位 高崎 章(椿) 六二七 Kg

◎胴回りの部

- 1位 坂本 勲(下飯谷) 一九三 Cm
- 2位 葛原栄市(上市) 一八三 Cm
- 3位 横手フサノ(柿田) 一八一 Cm

◎身長の部

- 1位 立野保雄(下市) 六〇 Cm
  - 2位 高崎 章(椿) 五七 Cm
  - 3位 山根辰夫(本郷) 五七 Cm
- 来年もやはり頑張ってください。

秋の七草

―万葉の草花―



◎秋の野に、咲きたる花を指(および)

折りかき数ふれば七種の花

◎芽子(はぎ)が花、尾花くず花など

しこの、花女郎花(おみなえし)ま

た藤ばかり朝顔の花

秋を詠む古代の人の二首、秋の七草が

巧みにあしらわれて今日迄伝えられて

います。

- 1、尾花 (すすきと読みます。)
- 2、おみなえし (女郎花)
- 3、ふじばかま
- 4、はぎ (萩)
- 5、くず花
- 6、なでしこ
- 7、ききょう (古くは朝顔とも)

親子読書とは

— 公民館から —



静かな夕べのひととき、お父さんやお母さんが幼い子供に毎日数分間絵本を読み聞かせてあげることです。

「お母さんのお話は子供の心の中でかすかに鳴りひびく金の鈴です。」

— 童話作家 椋 鳩十 —

今は故人となられましたが八十数才の高齢まで親子読書に情熱を燃やし続けた人で、大田市でも二回に亘って講演され満員の会場を感動一ばいに埋めた人です。以下講演内容の抜粋です。

親子のふれ合い、それは既に授乳の時から母と子のコミュニケーションが始まっている筈です。

もの心つく二〜三才の頃から始めると尚効果が高まると思われれます。

若いお母さん、根気よくやってみませんか。お話や絵本の嫌いな子供はいません。忙しい一日の中で毎日一〇分〜一五分でよいのです。お話に集中できる時間帯、静かな雰囲気を作る工夫、勿論家族の協力が必要となります。

更にお母さんの上手な演出によって必ず子供は飛びついて来る筈です。

楽しい雰囲気とお話の中から子供の夢は益々ふくらみ、いつしか空想の世界にさそい込まれて、自分をヒーローにおき換えてしまうもの、そして小さな子供らしい正義感も身につけます。

※強制(おしつけ)は絶対の禁物です。(読書指導ではありませんから)

絶え間ない努力はいつか両親への信頼と相候って子供の心奥深く浸透し、心の糧となり、やがて大きく成長した暁に再び蘇って来る。(これは椋先生の持論で「善意識」と言われたようです。)

おしらせ

◆公民館より

弓久 窪田繁太郎様



高山登山道整備の際、金一封の御寄付を頂きました。厚く御礼を申し上げます。

◆クリスマスお楽しみ子供会

十二月二十一日(土)午後一時から歌とゲーム 大屋・竹本先生

腹話術 森 千佳子先生

映画 「アリババと盗賊」他

◆一月一日 朝六時

元旦マラソン 集合場所 お宮

◆一月一日 午前十時

新年挨拶交換会

申し込み 十二月二十七日午前中に

公民館 有線4302〜1 まで

電話5〜2204 まで

会費 二〇〇円(当日)

◆赤ちゃん誕生

おめでとうございます。

柿田 横手昌則さん

〃純子さん あゆみちゃん

◆社協大代支部より

柿田 下吉成行様より

香典返しに替えて金一封の御厚志を頂きました。厚く御礼申し上げます。

※今年もあと僅か、健康に気をつけて

よいお年をお迎え下さい。